

第3回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年8月6日(火) 10時30分～12時 昆虫採集研修
13時～15時 授業づくりセミナー
- ◇会場 昆虫採集研修：蜻蛉の滝周辺
授業づくりセミナー：楽屋室
- ◇参加者 新宮・乾・恒岡(平城小学校)、高垣(愛媛大学)、中谷(あやの台小)、川崎(川上小)
尾上・古山・成瀬・上西・木村(森と水の源流館)、奥田(地域おこし協力隊)
北村・中澤(奈良教育大学)、雲雀(奈良教育大学学生) 計15人

◇内容

1. 昆虫採集の体験

(1) 昆虫採集の基本

①昆虫のクセをつかむ

昆虫の種は、それぞれ決まった行動をとる。採集する種のクセにあわせて採集方法を選択する。

②網の振り方

捕虫網は、横に振る。縦方向よりも横方向の方が網の可動範囲が大きくなる。

③昆虫の見つけ方

昆虫は、捕食されないように工夫している。基本的には、見つかりにくい場所に静止する習性がある。植物の葉や樹皮に似せた体色や模様をしている種がほとんど。自然の風景の中から、違和感を見つけ出すことが採集のポイントとなる。

(2) 採集方法

①ルッキング：目視・見つけ獲り いそうな場所で違和感を見つける

②スリーピング：掃き掃除するように、網で植物をなでる

なんでも捕れるが、危険な生き物が網に入る場合もある。

③ビーティング：木をたたいたり、蹴ったりして、振動を与え驚かして捕る

④トラップ：わなをしかける

落とし穴トラップ、エサ穴トラップ(よっちゃんイカ・カルピス・糞など)、粘着絆トラップ、誘因トラップ、ライトトラップ など



2. 授業案・授業構想の検討

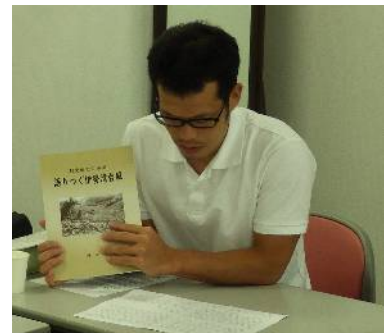
(1) 地域を流れる秋篠川の役割をこれからの私たちの生き方を考える：平城小学校

- ・秋篠川の役割に気づき、自分にできることを考え行動する
- ・秋篠川の現状を客観的に把握する
(生き物調査を通して)
奈良大学博物館「大和川水系の水生物」を見学
- ・きれいな川にいる生きものってどんな生き物
森と水の源流館を見に行こう (遠足)
- ・秋篠川の役割：稲作、遊び場、暑さを抑える。
- ・現状はあまり整備されていない。
- ・割れた窓理論 汚れているとますます汚れてしまう⇔美しく保たれていると愛着がわく
雑草を手入れするだけでいいのでは。(成果が見える)
ゴミを捨てられない場所に。
川に降りることができる場所が雑草で降りることができない
- ・ゴミを拾う 弁当ガラが捨てられている。拾うことが、海ゴミを減らすことになるという、地球的課題への貢献という意味付けができる。
- ・活動することで、川への関心が高まる。活動して関心を高めたうえで、行政への提案につながる。
- ・三面貼り → 親水性がさがる・関心が低くなる
ただし、川に改変を加えることはできない。多自然的護岸づくり
- ・アドプト制度で管理
- ・川上村でも年に1回のクリーンキャンペーンで掃除をしている。しかし、それだけできれいな状態が維持できるわけではなく、村の方々が自主的に草刈りなどを行っている。その行動に学ばせる。
- ・川は親しめるところだという感覚。自分たちが楽しむところは自分たちできれいに保つ。
- ・平城校区で景観や環境保全に取り組んでいる方と出会わせて、一緒に活動する。



(2) 自分たちの川上村は自分たちで守る：川崎（川上小）

- ・自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持たせたい
- ・伊勢湾台風から60周年 村史最大の惨禍
- ・川上村の被災状況を語るができる人も少なくなっているという現状。
- ・昨年度：水のつながりが人のつながりをつくることを学んだ
- ・今年度：川上村の歴史的な出来事についての学習意欲が高い
- ・伊勢湾台風の被害についての聞き取り調査



導入は伊勢湾台風被害の写真

(「語りつぐ伊勢湾台風」川上村)

- ・復興への取組についても
- ・南海トラフ地震や温暖化による異常気象、豪雨災害への備え→村民の防災への意識を高める
- ・現状として、村民の防災への意識はどうか。
- ・学べる防災ステーションでの豪雨体験の位置づけは6時間目でいいか。
伊勢湾台風の豪雨を体験できる。アーカイブがあり、語っている場面もある。子どもの知っている人もあるだろうから、実際に聞き取りに行く。(導入として位置付ける)
- ・自分ができること → すぐに避難できる・避難場所・経路の確認
- ・各家庭での防災の備えの状況を調査。
- ・避難後の行動について考える。避難所での自分たちの役割を考えさせる。(自分にできること)
- ・消防団、役場の方への聞き取り調査
- ・災害文化・災害対策についての地元の教訓 → についての聞き取りをしてもよいのでは。

(3) われら紀の川じるしの応援団：中谷（あやの台小）



子ども像

- ・大きな心で、自他を尊重し、思いやる子ども
- ・すすんで挑戦し、それを応援し合う子ども
- ・支えの中で生きていることに気づき、感謝の念を行動化する子ども

学校の柱

「人権・福祉・環境」

メインテーマ「生きるってどういうこと？」

- ・当たり前に使っている水について 努力と思いに気づく

- ・水について調べ、森を守る。「木を使ってくれてありがとう」 水新聞の作成
- ・森の保全の重要性 高野山で間伐体験。樹木医さんからの話。
- ・水も森も人の思いでつながっている
- ・ESDとしての価値 「当たり前」を問い直すことの習慣化：全体から考え直す
- ・子どもの変容 人のために何かできている・参加する態度が積極的に ← 人との出会い 人の生き方として仕事がある、という伝え方をした。
- ・歌で伝えるという表現方法
- ・応援すること 仕事について知り伝えること キャリア教育（正しい勤労観）の育成
- ・どういう人物との出会いが前向きに学習に取り組む態度や正しい勤労観を育成するのか、について 考察すると良いのでは。

次回（第4回）は8月31日（土）13時開催

内容は、学習指導案の検討です。よろしくお願ひします。